

第 35 期小田原市図書館協議会 第4回協議会 会議録

日 時 令和5年10月12日(木)9時 30 分から

場 所 小田原市立中央図書館2階 研修室

1 開会

2 文化部長挨拶

3 報告事項

(1)ネットワーク施設における所蔵資料の利用について【資料 1】

○事務局説明(植田副館長)

○質疑応答

〔藤本委員〕 各館の利用状況を見ると、自動車文庫の活動が広がっていくとさらに良いと思った。

読書活動の多様化という意味で。

図書館概況も見たが、児童クラブなどで自由に過ごす時間が多く、その時間を過ごす中で、本を読む時間に当てるのは素晴らしい。

他に社会教育施設はどこを回っているのか教えていただきたい。

〔植田副館長〕 ネットワーク施設以外にも、地区の公民館一館にも配本している。

〔米山主事〕 社会教育施設の内訳は、主にネットワーク施設。

その他に、梅の里センターの図書室などに配本している。

〔馬見塚委員〕 自動車文庫の配本頻度は？

〔米山主事〕 施設によって異なる。ネットワーク施設は1か月に1～2回配本をしている。

放課後児童クラブは、3か月に1回の配本となっている。

〔馬見塚委員〕 各所蔵の入れ替えは全体の何割程度か。

〔米山主事〕 所蔵冊数に、自動車文庫は含まれていない。

施設によって50～100冊を一回につき配本している。

〔馬見塚委員〕 本棚にある本を入れ替えるのではなく、追加で自動車文庫の棚を入れ替えているのか。

〔米山主事〕 そのとおりである。

施設によっては、自動車文庫の専用コーナーが設けられている。

〔佐次館長〕 各施設の蔵書の鮮度を上げるためにも、自動車文庫を活用している。

それぞれの施設の蔵書に追加して、利用してもらっている。

けやきは図書購入の予算を持っているが、他の施設は、図書購入の予算を持っていない。オリジナルの蔵書は大きな入れ替わりがない。

〔石塚副館長〕 資料の補足であるが、前回、大塚委員より、ネットワーク館の蔵書が動いていないのではないか、という指摘があった。各施設の所蔵本は、その館だけでなく他館にも貸出しを行っている。

よって貸出数は伸びており、回転数を引き上げている。

〔野口委員長〕 この表をみると、1を超えているのはとても良いと思う。

一方で、けやきと国府津は低いという印象を持つ。その要因は何か。

- 〔佐次館長〕 実際に、回転率が1というのは、3回、4回借りられている本もあるという平均値である。回転率の高いところは、利用ニーズにあう本があるという推測がされる。
- 本それぞれに視点をおかないと読み取れないが、マロニエは全体の利用ニーズの多い日本文学を多く置いているなど、蔵書の構成バランスによって、貸出の伸びが変わってくるのではないかな。
- 現時点ではそこまでの分析はしていない。
- 〔野口委員長〕 けやきや国府津の利用ニーズを分析すると、蔵書がマッチしていない可能性もあるので、そこに手をいれる必要もあるかもしれない。
- ニーズに不足している部分を、自動車文庫で補うのはとてもよいことだが、所管は異なるが、そもそもの蔵書へのテコ入れも必要かと思う。
- 〔植田委員〕 場所的に、けやきや国府津に本を借りに行きたいと思わず、子どものために本を借りるとなると、中央図書館に行きがちである。
- 〔大塚副委員長〕 前回の意見を踏まえ、資料を作っていただきありがたい。
- 個人的に調査をしたが、所蔵資料の鮮度低下が課題であることがわかった。
- 自動車文庫のそもそものシステムは、図書館の職員が回っているのか。経費はいかほどか。
- 〔佐次館長〕 自動車文庫は元々、ネットワーク施設のために用意されたのではなく、地域の文庫活動を支えるための仕組みである。
- 実際に、本の選書は図書館職員が行っているが、届けるのはシルバー人材センターに委託している。
- 現状のメインの利用は、放課後児童クラブ。子ども向けの本が中心である。
- ネットワーク施設の鮮度の維持のための配本割合を増やしている。
- 〔植田副館長〕 図書館概況の23ページに図書館購入費についての記載があるのでご確認いただきたい。
- 〔藤本委員〕 市民の声ということで、ネットワーク施設について、便利という声を聴いた。
- 検索システムが使いやすいようである。通勤のついでなどで、本の取り寄せなど、効果的に使用しているようである。
- 図書館が人との出会いの場という点で、今後も自動車文庫を取り組んでいただきたい。

(2)図書館の利用環境の拡充について【資料2】

○事務局説明(植田副館長)

○質疑応答

- 〔大塚副委員長〕 マイナンバーの良い、悪いは別として、利用環境の拡充はとても良い取組と感じている。
- 図書館カードがなくても、マイナンバーカードで借りられるというのは良い。
- 年齢層によって、人気な本などを把握し、活用することはできるのか。
- 〔佐次館長〕 選択肢が増えると考えてもらえればと思う。
- 個別に誰が何を借りたのかに関するデータは、削除しているが、どんな分野の

本が借りられているのかなどの統計は、現時点のシステムにおいても把握できるようになっている。

〔大塚副委員長〕 図書館カードを持っていなくても、マイナンバーカードを持っていれば借りられるのか。

〔佐次館長〕 現在検討しているのは、マイナンバーカードを図書館カードとして使える手続きを行えば、そのあとは、マイナンバーカードのみで借りられるようになる予定。自動貸し出し機もマイナンバーカード対応させる予定。

〔野口委員長〕 図書館システムを通さないと、統計は把握できなくなっていくのか。

〔佐次館長〕 仕組みとしては、図書館のシステムだけで統計把握をしていく。

〔勝川委員〕 マイナンバーカードは全国共通だが、県外在住者が小田原市の本を借りられるようになるのか。

〔佐次館長〕 小田原市の図書館蔵書の貸出の範囲が広がるわけではない。

〔米山主事〕 前提として、図書館の利用者カードは継続して発行していく。最初に、資格の確認は登録時に行い、追加登録としてマイナンバーも登録するイメージ。

〔野口委員長〕 利用登録している人が、図書館カードか、マイナンバーカードを選んで使えるということに理解した。

〔長谷川委員〕 パプコメの別紙をみたが、導入後のイメージが理解しにくいと感じた。図を入れてあげると、理解しやすいのではないかと感じた。

〔佐次館長〕 パプコメの資料は、変更内容に限って記載をしている。
今後、利用開始になった際は、全体がわかる広報に努めていく。

〔野口委員長〕 資料によっては、マイナンバーカードでしか貸出できないように見える。
「既存の図書館カードに加えて」マイナンバーカードでの～という記載にしていくと良い。

〔植田副館長〕 事業開始に際した広報は、全体が把握できるような広報に努めていく。

〔菊地部長〕 パプコメの記載はこの内容で進めていきたいが、別途ホームページなどでご案内を加えていきたい。

〔野口委員長〕 取組には賛成だが、誤解を招いて反対意見があるともったいないと思う。

〔馬見塚委員〕 市民にデメリットがなければ、よいと思う。
図書館カードにできて、マイナンバーカードでできないことはあるか。

〔佐次館長〕 ありません。

〔大塚副委員長〕 マイナンバーカードを利用するための手続きには時間がかかるのか。

〔佐次館長〕 その場ですぐにできることと想定している。

〔野口委員長〕 手続きは、中央図書館、東口図書館両方でできるのか。

〔佐次館長〕 ネットワーク館も含め、図書館システムを置いている施設では対応可能。

(3)館内利用について【資料3】

○事務局説明(石塚副館長)

○質疑応答

〔馬見塚委員〕 難しい問題をきれいにまとめてもらったことに、賛同する。

〔大塚副委員長〕 イラストを使用していて、とてもわかりやすく、一定の基準を設けていただく

と、「話していい部分」など許容範囲の部分もわかって良い。

館内にもマークを示すのか。

〔佐次館長〕 館内へのマーク掲示については、今後検討していく。

〔植田委員〕 一目見てわかりやすくてよい。紙パックは NG なんだ、と理解できる。

創作室のフリースペースの利用の範囲の想定はどのようなものか。

〔佐次館長〕 想定としては、学生が複数で勉強や自由研究をするなど、話しながらの利用も可としている。

〔植田委員〕 施設を借りるときは受付に声をかけるのか。

〔佐次館長〕 自由に使ってもらってよい。

〔野口委員長〕 創作室の開放は、賛成だが、トラブルはないのか。

〔佐次館長〕 今のところ、トラブルはない。創作室で話している人を嫌がる方がいる場合、静かにするエリアを利用してもらうように促すことになる。

〔野口委員長〕 そういったことの理解を促すためにも資料はいい。

〔勝川委員〕 においについて NG に入れることはないのか。

〔佐次館長〕 実際に、においについて個別に注意をすることはある。
この資料は、個別問題についての表現は入れていない。

〔野口委員長〕 東口図書館にもこういったものがあるのか。

〔青柳東口図書館 統括責任者〕 特に凶にしたものはないが、言葉で記載しているものはある。

音のゾーニングなど、明記することで理解を求められると思うので、東口図書館でも参考にしていきたい。

〔植田委員〕 娘が小学生だが、児童が勉強可能なところはないのか。

〔佐次館長〕 児童コーナーで宿題を行うことは可能。研修室や集会室は、中学生以上と示しているが、閲覧席で小学生の利用は見受けられる。

創作室も、解放時は、小学生の利用は可能であり、実際親子で勉強に使っている様子も見受けられている。

4 その他

・子ども読書を取りまく事業と小田原市との連携について

○大塚副委員長から質問があった

〔大塚副委員長〕 図書館を中心に、子ども読書を取りまく事業が、小田原市では連携できていないと感じる。今後考えていっていただきたい。

〔佐次館長〕 関連する団体が話し合える機会がほしいということか。

〔大塚副委員長〕 そうである。

〔佐次館長〕 具体的なイメージが、今時点でないが、今後検討していきたい。

・劇作家・北條秀司 生誕満 120 周年企画 について

○事務局説明(野地副館長)

・バリアフリー上映会 について

○事務局説明(藤原主事)

・読書活動推進講演会「読書と冒険」について

○事務局説明(佐次館長)

・電子図書館 利用状況 について

○事務局説明(植田副館長)

〔野口委員長〕 今後、活用が伸びることを望む。

〔佐次館長〕 電子図書館の利用が昨年から開始されたが、利用者が固定化されている。まだ紙の本に対するニーズが高いことが見受けられる。
全体の利用者の比率のうち、児童生徒の利用の割合がかなり高いことから、児童生徒が本を読むきっかけにはなっていることがわかったので、今後も利用について注視していきたい。

〔野口委員長〕 一般の利用者に対するアプローチはどうしているのか。

〔佐次館長〕 電子図書館利用開始時などには、広報を大々的に行ったが、今後も様々な媒体を利用した周知について検討していきたい。

〔野口委員長〕 多くの市民が集まる施設に「電子図書館はじめました」といったポスターを掲示してみتهはいかがか。
また、利用方法の体験会なども実施してみتهはいかがか。これは、図書館で開催するとあまり意味がないので、小田原駅の地下街で実施するなどしてみتهはいかがか。

〔石塚副館長〕 電子図書館は、バリアフリー対応もしているのでバリアフリー映画会の際にも宣伝する予定。

・事務連絡(石塚副館長)

次回の図書館協議会は、2月に開催する予定

5 閉会

〔野口委員長〕 これをもちまして、図書館協議会を終了する。